

わが国のハンドボールにおけるゴールキーパーコーチ養成システムの現状と課題

上嶋亜樹（202011481、ハンドボールコーチング論）

指導教員：會田 宏、山田 永子、藤本 元

キーワード： GK コーチ資格、GK コーチ養成、GK 育成・強化

【目的】

本研究では、日本ハンドボール協会（JHA）におけるゴールキーパー（以下GKと略す）コーチ養成とGKを育成・強化する内容に関する現状を、国際ハンドボール連盟（IHF）、ノルウェーハンドボール協会（NHF）および日本サッカー協会（JFA）との比較を通して明らかにし、わが国のハンドボールにおけるGKコーチ養成システムの開発案を実践に提言することを目的とする。

【方法】

（1）分析対象

JHA、IHF、NHF、JFAのウェブサイトを分析の基礎資料とした。

（2）分析の手続き

IHFとNHFの資料に関しては、分析対象資料の全文をテキストデータに変換した後、「Google翻訳」を用いて日本語に翻訳した。ノルウェー語の翻訳内容が理解しにくい箇所は「Deep L 翻訳」を用いて英語に翻訳し、文章の意味を解釈した。翻訳の精度を高めるために、筆者とハンドボールコーチング論を専門とする教員の2名で文章の推敲を行った。

【結果】

（1）GK育成・強化の理念、コンセプト、考え方

JHAには18歳以下の選手を育成・強化するシステムや育成機関があり、その中にGKの内容が組み込まれている。IHFにはGKを育成・強化するためのコンセプトなどは資料の中には見られない。JFAにはGKに特化したプロジェクトや育成・強化のためのコンセプトがあり、日本が世界で戦っていくためにGKの重要性を認識していることが窺える。

（2）指導者資格およびGKコーチ資格の現状

JHAにはGK指導に特化した資格は存在しない。IHF、NHF、JFAには通常の指導者資格に加えて、GKに特化した資格が存在している。IHFには2段階、JFAには4段階のGKコーチ資格がある。NHFには基礎教育とトップ教育の2つがある。

JHAとJFAでは通常の指導者資格の講義時間の中でGKの内容が含まれているのは数時間である。GKコーチ資格の講義時間は、IHFは2段階とも40時間である。JFAはレベルが上がるごとに講義時間が増え、

海外視察などの専門的な内容の講義や講習が存在している。NHFには、時間や条件などの明記はない。

（3）ハンドボールのGK育成・強化指導内容の現状

NHFのGKの育成・強化には具体性と一貫性がある。具体的な内容は5つに整理され、特にフィジカルトレーニングを一番多く扱っており、フィジカル面を重要視していることがわかる。JHAはGKの構えやディフェンダーとの連携に焦点を置いたトレーニングが示されているが、年度ごとにテーマが設定されており、それらに一貫性は感じられない。

【考察と実践への提言】

IHF、NHF、JFAには、GK指導者養成システムの中でGK指導に関する専門的知識を学修できるが、JHAは通常のコーチ資格しかないため、GKに特化したコーチ資格を作成する必要があると考えられる。

作成にあたってはIHFとJFAを参考にして、12歳以下のジュニア世代のGKを指導できる「GK-C級資格」、18歳未満のユース世代のGKを指導できる「GK-B級資格」、18歳以上のシニア世代のGKを指導できる「GK-A級資格」の3つに分け、それぞれの講習時間を20時間、30時間、60時間とすることが提案できる。

GKの育成・強化内容の目的については、NHFの教育の内容を参考にし、GK-C級は選手の技術的レパートリーを増やし、既存のテクニックを発展させる方法についての知識を習得することを、GK-B級は試合やゲームトレーニングにおいて、適切な練習を選択し、効果的に進めるための知識を習得することを、GK-A級はハンドボール指導の経験を積み、目標とする活動を計画、実施、評価する能力を強化することをそれぞれの目的とすることを提案できる。

GKコーチ資格講習の受講条件は、GK-C級はGKの指導を行っており、かつ通常の資格の第1段階に当たるコーチ1の資格を有している者、GK-B級はGKの指導を行っており、かつGK-C級またはコーチ3を有している者、GK-A級はGK-B級を有している者、コーチ4を有している者、GK-B級を取得後1年以上のGK指導実績がある者などとすることを提案できる。